

神戸中通信



〒513-0038 鈴鹿市十宮町 1335 TEL 059-382-0305

高岡橋橋梁上から神戸中学校方面を望む

今回の「神戸中通信」は、「ペアやグループでの活動を積極的に取り入れる」「Chromebookの活用を広げる」「広島への修学旅行で平和への思いを巡らせる」についてお伝えします。

【神戸中 HP「QRコード」】



ペアやグループでの活動を積極的に取り入れる！

各教科では、“対話的・協働的な活動”を取り入れた学習を行うに心がけています。そのため、授業の中でペアやグループといった小集団で考えたり、意見を交換したり、まとめたりといった活動を取り入れるようにしています。

このことで、自分の意見を発表する力や、仲間の意見から自分の考えを広げたり、新たな考えに気付いたりする力を育てていきたいと考えています。

各授業では、ペアやグループが一緒になった人たちと積極的に意見を交換したり、聞き合ったり、教え合ったりといった活動に、積極的に取り組んでほしいと思います。



“Chromebook”の活用を広げる！

生徒一人に一台の“Chromebook”が配布され1年が経ちました。

学習課題への自分の考えや授業の振り返りを書き込んだり、検索や調べ学習に活用したりと利用方法も広がりつつあり、今後は、家庭への持ち帰りを検討していきます。



広島への修学旅行で“平和への思い”を巡らせる！

パラミタミュージアム（菟野町）

で開館20周年特別企画「平山郁夫
遥かな道」（4/2（土）～6/5（日））

を鑑賞しました。

日本画家の巨匠、平山郁夫画伯は昭和5（1930）年、広島県瀬戸田町（現在の尾道市瀬戸田町）に生まれ、15歳の中学生の時、広島に投下された原子爆弾の爆心地から3kmほど離れた兵器を取り扱う工場（兵器廠）にいて被爆しました。

その後、画家として平和への祈りを込め、原爆や戦争をテーマにした絵を描かれています。

“自伝的画文集抄”では、絵を描いた心情が書き添えられています。

15歳で被爆された平山郁夫画伯と同じ年齢で広島に出向く3年生の皆さんにも、15歳の視線で“平和”への思いを巡らせてほしいと思います。



【平山郁夫 自伝的画文集抄
「道遥か」より】

絵：原爆ドーム（1991年）



【平山郁夫 自伝的画文集抄「道遥か」より】
絵：廃墟と化した広島（1991年）

＜惨禍＞ 「廃墟と化した広島」に添えられた文

爆心地から3キロ。一発の閃光に人々は右往左往していた。しかし、兵器廠の内部はまだままだったのだ。一步外に出てみると、そこは地獄さながらの世界だった。

町の中心部の方ではさかんに火の手が上がり、時々、爆発音も聞こえてくる。そちらの様子が気になったので、行こうとしたが、避難してくる被災者の群れと火にさえぎられ、なかなか前にすすめない。

全身にやけどを負い、皮膚がめくれて雑巾のようにたれさがっている人がいた。体中にガラスの破片が食い込んでいる人がいた。

黄金山という小高い山に向かった。そこなら市内を見渡せるはずだ。斜面には大勢の避難民がいた。どこからか「水をくれ！」とうめき声が聞こえる。

昭和20年8月6日、原爆投下直後の広島
の惨状は、15歳の中学生には強烈過ぎた。